

うめのき幼稚園だより

令和7年1月9日
北区立うめのき幼稚園

げんきもりもり

えがおにここに

ひとみきらきら

1月

共に感じる

園長 篠澤 恵理

昨年の12月に年少りす組の子どもたちは、今年の干支である「へび」を作ると、すぐにそれを持って園庭の土手に出かけていくことを楽しんでいました。ある子は、探検隊の相棒に、またある子は「へび」をレーダーに見立てて探検の道具にしています。子どもたちは、園庭にある「カエルハウス」を探検隊の基地のようにして集うことが大好きなので、担任は製作に必要な道具を揃えたワゴンや空箱などをハウスの横に運んでみました。子どもたちは、お気に入りの製作物を更に改良したり、何かを作ったりしながら、土手に出かける勢いが増しているようでした。

土手では、そこから見える景色を眺めたり坂道を走ったりするなど、子どもたちの興味や関心が膨らむ場所になっています。「はっぱがない！」と木々の変化に気付くことや、土手を滑り降りることも楽しめます。段ボールを敷き詰めてみると、土手の滑り台が完成して、子どもたちは何度も試していました。新年を迎えて、この遊びがどう変化していくか楽しみです。

年長もり組では、「幼稚園の好きなところ」を子どもたちが自分で写真に撮って飾っています。保育室にある「様々な木の実や種」、園庭の「紅葉した銀杏」など、一人一人の選んだおすすめの写真からは、子どもたちの思いが伝わってきます。園舎全体を撮った子は、「幼稚園の全部が好きだから。」製作ワゴンを撮った子は、「いっぱい作れるから好き。」と、理由を話してくれました。一枚の写真からは、様々なことが読み取れます。時には、自分の見たいように見てしまうことでもあります。今までの経験や、そのものに対する自分なりの印象が先に立つと、関心を向けている方へ見方が偏ることもあると思います。そのことを自覚した上で、「子どもたちは何を感じているのかな。」と、共に感じるやり取りが大切だと考えます。子どもが見ている景色や思いに寄り添いながら、背景にある意図を読み取り、一緒になって面白がっていくと、新たな見方や感じ方に気付くこともあります。横並びになって同じ物を見つめながら、一人一人の心の声に思いを向けることを大切にしたいと思っています。

今年も幼稚園では、お気に入りの「場所」や「物」「こと」「人」との出会いを見付けられるように、環境を整えてまいります。

保護者の皆様、地域・園関係者の皆様、本年もどうぞよろしくお願いいたします。



【探検隊ごっこ】



えがおにここにコーナー

みかんの木は、春にはアゲハチョウとその幼虫を迎えて、子どもたちと羽化を見届けたこともありましたが、最後に収穫したみかんは、土手の上で一房ずつ大事そうにいただきました。年末の大掃除の後には、お湯の中にみかんの皮を入れた「みかん湯」にして手を温めました。今年も、一年を通して様々な収穫体験と共に、心に温かく残る感動体験を計画してまいります。

年長もり組は、子ども劇場で「オズの魔法使い」の劇を披露しました。鬼ごっこの中でも「勇気を出そう!」「考えよう!」などと、劇のテーマを自分たちの生活に生かしている姿に成長を感じます。新しい年を迎え、子どもたちの秘めている力をますます引き出していくのが楽しみです。



【みかん・大根の収穫】



【もり組子ども劇場】